

今日の力

編輯 岩田欣三

御茶の水キリストの教会

ドロシー・W・ムーア 1984

3月27日(火)

主の助け

聖書朗読 詩篇 55:16~23

あなたの重荷を主にゆだねよ。主は、あなたのことを心配してくださる。主は決して、正しい者がゆるがされるようにはなさない。 詩篇 55:22

私を教えてくれた先生の中に、「あなたが接する人は誰にでも親切にしろ。その人は何かしら重荷を背負っているかもしれないから」といつも私たちを諭す先生がいました。接する人が皆そのとき重荷を負っているわけではないかもしれませんが、いつも気苦労なく生きていられる人はいないでしょうし、また、試練や困難があるからこそ、私たちの成長に大きな違いが生まれるのでしょうか、人生は常に気楽であるべきではないと思います。

ダビデと同じように、私たちの重荷もしばしば、自らの罪や愚かさをもたらすのではないのでしょうか。ダビデは、苦い経験を通して、私たち人間の最善の選択肢は、その重荷、特に罪からくる重荷を主に委ね、絶望と敗北、挫折に代わり、糧と助けを受け取ることだということを学んでいます。主が与えてくださる助けは確実に力強く、信頼できるものです。何と素晴らしい約束でしょう。イエス様も私たちにこう言っておられます。「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」(マタイ 11:28)

神は、いつも青い空を約束しておられない。
散った花びらが、私たちの歩みの至る所にある。
神は、雨のない晴天、悲しみのない喜び、あるいは、痛みを伴わない平和のみを約束してはおられない。
しかし、神は、その日一日の強さを、骨折りには癒しを、道に光を、
試練に恵みを、天からの助けを、尽きることのない憐れみと永遠の愛を約束された。

—A. J. Flint

讃美歌 517

祈り 主よ。試練のときに、自分の力や知恵に頼らず、あなた様のみこころを求め、あなた様の助けに信頼できる者としてくださいますように。
イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

イモジーン・シバート 1974

3月28日(水)

堅固な岩

聖書朗読 詩篇 15編

主は生きておられる。ほむべきかな。わが岩。あがむべきかな。わが救いの神。 詩篇 18:46

詩篇15編でダビデは、決して揺るがず、挫かれない生き方について具体的に記していますが、その生き方は、一貫した調和の取れた姿勢によって表された真の生き方というものです。信用できる人というのは、自分の成長のために他者を犠牲にして様々な状況を利用したり、価値観や物事に対する見方が目新しい世論に左右されたりすることはありません。利己主義や自己正当化は、この真の生き方には相反するものです。また、こうした真の生き方をする人は、社会の中で、表のイメージづくりの裏に隠された卑劣な行いを擁護することをしません。そうしたことに對しむしろ公正な態度で、はっきりとものを言う人です。

真の生き方をする人は、このような生き方をする中で、困難な状況に置かれることもあるかもしれません。けれども、イエス様や弟子たちそして預言者たちが経験したことを思い出してください。真の生き方は、人生の悲劇や嵐を回避するものではありません。けれども、こうした生き方をする人々は、苦難の時の避け所であり岩なる神様のご臨在を経験するのです。神様の民は決して揺るがされることはありません。それは神様の約束であり、神様は忠実に守ってください、また、たとえ神様がおられないのではないかと感じる時があっても、常にそばにいてくださるからです。

ヨブのような信仰は決して揺るがない。
それは、揺るがされた人生を経験した者の信仰だから。
—Abraham Heschel—

讃美歌 301

祈り 父よ。家族、教会、職場そして地域の中で、真の生き方ができるよう、勇気と知恵をお与えください。あなた様の多くのご契約を感謝します。
よみがえられた救い主なるイエス様のお名前によって祈ります。
アーメン。

バージー・ナイマン 1998

3月29日（木）

神への信頼

聖書朗読 詩篇 56編

わが避け所、わがとりで、私の信頼するわが神。

詩篇 91：2

避け所、砦。これらに私たちは強さ、守り、そして安全のイメージを抱くでしょう。私たちは人生の様々な苦難から逃れようと避け所を必死に探そうとします。

避け所を教育に見出そうとする人もいます。教育に避け所を求めるのは頷けるものかもしれませんが、苦難からの避け所を与えてくれるものではないでしょう。

避け所を科学に見出そうとする人もいるでしょう。科学は様々な問題から私たちを守る手段を提供してきました。科学は、海や空の解明をし、人の平均寿命を延ばすことに貢献してきたかもしれませんが、私たちの失望や苦悩そして死に対しては、無力なものです。

またお金に避け所を求める人もいるでしょう。お金への信頼は、全般的外れではないでしょうか。自殺率という点でも、財産を持っていない人よりも持っている人の方が高いのです。

こうしたものは永遠の避け所ではなく、もろい砦であり、病や事故、抑うつ的な精神状態などによって容易に崩れてしまいます。

それでは、時はどうでしょう。時も、その経過とともに顔の皺も深く刻まれ、目はかすみ、手も震えてくるといった老いという悩みが伴うでしょう。

『恐れのある日に、私は、あなたに信頼します。』（詩篇56：3）。このように言える人は幸せだと思います。『神はわれらの避け所、また力。苦しむとき、そこにある助け。』（詩篇46：1）。これこそ真の避け所なのです。

讃美歌 286

祈り 父よ。私たちがこの世のものに避け所を求めるという落とし穴に陥ることがないように助けてください。どうか唯一安全で永遠の避け所であるあなた様の御腕に私たちを抱いてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ジョー・R・バーネット 1985

3月30日（金）

神よ、憐れんでください

聖書朗読 詩篇 57編

あなたがたは、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天におられるあなたがたの父が、どうして、求める者たちに良いものを下さらないことがありましよう。

マタイ 7：11

『神よ。私をあわれんでください。私をあわれんでください。』（57:1）。ダビデは、彼を殺そうとする王から逃れ、暗い洞窟の中に身を潜めていたとき、このように叫んでいます。この時ダビデは、すぐ近くに王が迫ってきていることを知り、なすすべもなく、力なく心も崩れそうになっていました。彼は、窮地に追い込まれ、疲れ果て、神に助けを求めました。そして、「神は恵みとまことを送られる」と一言の祈りを捧げて神を称えています。

現代の私たちクリスチャンは、妬みを抱いた王に追われることはありませんが、様々な困難や恐れによって、繰り返し神様に「神よ、私をあわれんでください」と助けを叫び求めているのではないのでしょうか。けれども、必死に助けを求めるあまり、既に助けが来ているのに気付かないこともあるでしょう。神様の助けに気付かされたとき、神様がまさにその祈りを聞かれたことに驚きを覚えます。神様に助けを叫び求めることを忘れずにいましょう。

讃美歌 291

祈り すべての人の主よ感謝します。天の神を称えます。全地にあなた様の栄光がありますように。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ミッシー・ハミルトン 1977

3月31日 (土)

キリストの柔らかな心

聖書朗読 詩篇 86 : 11 ~ 17

このように、キリストは肉体において苦しみを受けられたのですから、あなたがたも同じ心構えで自分自身を武装しなさい。肉体において苦しみを受けた人は、罪とのかかわりを断ちました。
Iペテロ 4 : 1

主は『私は心優しく、へりくだっている』(マタイ 11:29)と言われましたが、決して心が弱いということではありません。むしろ、主はその勇敢さのゆえに、パリサイ人らからの苦しみに耐え、激しく打ちのめされても冷静でおられ、ゴルゴダでの拷問と嘲りに敢えて面と向きあわれたのです。主は、激しく罵られて恐れを抱くことも、また、人々の威圧的な態度に怯むこともありませんでした。主は、穏やかさと他者を思いやるという優しいご性質を、むしろ強さとして身につけておられ、主の優しい心は、知恵として身に付けられた心の平静さからくるものでした。

キリストの心の優しさを、見捨てられた子羊の震える恐れになぞらえる人がいますが、それは誤りです。イエス様の姿勢は、ただ弱くひざまずくような無抵抗な姿勢ではありません。黙って苦しみを受けられましたが、それは、よく理解した上でのことでした。誇りや富、強い権力が称賛されたのに対し、主は愛と、喜び、そして平安を崇高なものとされました。そしてあらゆるタイプやニーズの人々が主のもとへ集まり、主の穏やかさと平静な心を分かち合うようになったのです。

私たちは、私たちの主そしてクリスチャンとしての歩みから、その美しさ、誉れを奪い去ってはなりません。キリストの柔らかな心が私たちの心に深く根付くとき、人々が考える柔和に代わるものとなります。変わりやすいわべだけの柔和さと、穏やかな色をし滑らかなベルベットに包まれたような優しさの裏にある真の強さという柔和さ、この二つの柔和は共存することはできません。

讃美歌 333

祈り 主よ。陰鬱な心やよろめきそうな足であなた様に仕えることがないように、そして、何かをするときに内側から湧き出てくる喜びをお与えください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

エド・エンザー・JR 1964

4月1日(日)

富に対するクリスチャンの姿勢

聖書朗読 詩篇 49 : 1 ~ 15

わずかな物をもっていて主を恐れるのは、多くの財宝を持っていて恐怖があるのにまさる。
箴言 15 : 16

「お金はすべてではないが、次に来るものよりずっと大切なもの」。お金についてこのように言う人がいます。財産について、すべてを手に入れるか、全く持たないかどちらかという極端な姿勢があります。金銭的豊かさについて、ただ金銭だけを求める人は愚かで、「金銭を愛することは、あらゆる悪の根」をまさに証明してしまうのは明らかです。一方、貧困については、神様は、弟子としての歩みの妨げとならない限りは、物質的な世から完全に離れるよう求めてはおられません(マタイ 19 : 16 ~ 22)。

詩篇ではいずれの極端な姿勢も求めていませんが、財産についての正しい理解が求められています。財産は、私たちのいのちを生きながらえさせるものでも、死んだ後も持ち続けられるものでもなく、他の者たちに残されるものです。家も記念碑もこの世を変えることはできません。

多く持ち過ぎて心配する人は殆どいないかもしれませんが、十分であるのに心配する人は多くいるでしょう。あなたの姿勢はどうあるべきでしょう。財産は、それぞれ与えられた賜物に従っていただくようにしましょう。すべては神様から与えられたものですから、良き管財人として財産を管理しましょう。そしてキリストのように惜しみなく施す性質を身に付けていきましょう。

讃美歌 513

祈り 親愛なる神様、あなた様の豊かな恵みを感謝します。賢明に事を成し、あらゆる賜物の源を覚えさせてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

レオン・B・サンダーソン 1979